（１４）　チンゲンサイ

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
1 軟腐病 *Pectobacterium carotovorum*	1.連作を避ける。 2.窒素肥料の過剰施肥を避け、適正施肥をする。 3.排水を良好にする。 4.発病株は早期に処分する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.病原細菌は害虫（キスジノミハムシ、ヨトウムシ類）の加害傷口から侵入するので、害虫を防除する。 2.コサイド３０００とＺボルドーは、黒腐病にも登録がある。	発病前から	M1 M1 M1 31	ドイツボルドーA Ｚボルドー コサイド３０００ スターナ水和剤
2 根こぶ病 *Plasmodiophora brassicae*	1.苗床は無病な土を使用する。 2.前年発生したところでは連作を避け、アブラナ科以外の作物との３年以上の輪作をする。 3.石灰窒素を施用し、土壌の酸度を６以上に矯正する。 4.圃場の排水を良好にし、低湿地や排水不良地での作付けを避ける。 5.発病株は根部を含めて、完全に除去する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.ガスタード微粒剤、バスアミド微粒剤の消毒方法はⅢ－14. 土壌病害虫の防除の項参照。	土壌消毒	－ －	ガスタード微粒剤 バスアミド微粒剤
		播種前または定植前	21 21	オラクル顆粒水和剤 オラクル粉剤
		播種または定植前	29 36	フロンサイド粉剤 ネビジン粉剤
3 炭疽病	1.ポリマルチや敷わらを行う。 2.排水をよくする。 3.窒素肥料の多用を避ける。 4.被害果や被害葉は除去し、処分する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.ベンレート水和剤は、白斑病にも登録がある。	発病初期	1 11	ベンレート水和剤 スクレアフロアブル
4 アブラムシ類	1.周辺雑草を防除する。 2.飛び込み防止のための防虫ネット（１㎜目合以下）で被覆する。 3.周辺にシルバーテープをはる。 4.シルバーマルチをする。	播種時	4A 4A 4A	アルバリン粒剤 スタークル粒剤 ダントツ粒剤
		定植時	4A 4A	アクタラ粒剤５ ダントツ粒剤
		定植前日～当日	4A	モスピラン粒剤
		発生初期	1B 3A 3A 4A 4A 4A 4A 4A 4C 28 29	オルトラン水和剤 アグロスリン乳剤 スカウト乳剤 モスピラン顆粒水溶剤 アクタラ顆粒水溶剤 ダントツ水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤 トランスフォームフロアブル ベリマークＳＣ ウララＤＦ
5 マメハモグリバエ	1.育苗床またはハウス開口部に防虫ネット（１㎜目合以下）をはり、成虫の飛来を軽減する。 2.被害植物や雑草は除去後、土中に埋めるか、ビニールシート等で密封し、半月程度放置する。 3.改植時には土壌消毒を行い、蛹を死滅させるか、次回の作付まで20日程度おいて羽化してきた成虫を死滅させる。 4.周辺及びハウス内の雑草処理を徹底する。 5.侵入防止効果のとれているハウスでは、黄色粘着トラップを吊るすことにより、密度を下げることができる。 6.ハウス栽培では収穫終了直後に圃場の地表面を透明フィルムにより全面被覆し（夏場の晴天日であれば１日処理が目安）、地温を50℃以上に上げると、土中の蛹を死滅させることができる。	発生初期	4A 5 5 6 14 15 17	ダントツ水溶剤 スピノエース顆粒水和剤 ディアナＳＣ アニキ乳剤 エビセクト水和剤 カスケード乳剤 トリガード液剤

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

チンゲンサイ

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
6 モンシロチョウ （アオムシ）	1.育苗床では防虫ネット（４㎜目合以下）で被覆する。 2.幼虫は見つけしだい捕殺する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.幼虫の発育が進むと薬剤の効果が落ちるので、早めの防除を心がける。 2.防除したあとも成虫が飛来産卵するので、常に幼虫の発生に注意する。 3.スピノエース顆粒水和剤はアザミウマ類、ハモグリバエ類、ハイマダラノメイガにも登録がある。	定植前日～当日	4A	モスピラン粒剤
		発生期	3A	アディオン乳剤
			5	スピノエース顆粒水和剤
			5	ディアナSC
			6	アファーム乳剤
			11A	トアローWG剤CT
			11A	トアローフロアブルCT
			11A	バシレックス水和剤
			11A	ゼンターリ顆粒水和剤
			11A	デルフィン顆粒水和剤
			11A	エスマルクDF
			11A	フローバックDF
			11A	チューンアップ顆粒水和剤
			11A	サブリナフロアブル
			14	エビセクト水和剤
			15	カスケード乳剤
7 コナガ	1.紫外線反射資材を用いると、成虫の飛来を軽減することができる。 2.育苗床では防虫ネット（２㎜目合以下）で被覆する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.スピノエース顆粒水和剤はアザミウマ類、ハモグリバエ類、ハイマダラノメイガにも登録がある。	定植前日～当日	4A	モスピラン粒剤
		発生初期	5	スピノエース顆粒水和剤
			5	ディアナSC
			6	アファーム乳剤
			6	アニキ乳剤
			11A	トアローWG剤CT
			11A	トアローフロアブルCT
			11A	バシレックス水和剤
			11A	ゼンターリ顆粒水和剤
			11A	デルフィン顆粒水和剤
			11A	エスマルクDF
			11A	フローバックDF
			11A	チューンアップ顆粒水和剤
			11A	サブリナフロアブル
			14	エビセクト水和剤
			15	ノーモルト乳剤
			15	カスケード乳剤
			22B	アクセルフロアブル
			28	プレバソンフロアブル５
			28	ベリマークSC
			UN	プレオフロアブル
8 キスジノミハムシ	1.育苗床では防虫ネット（0.8mm目合以下）で被覆する。 2.アブラナ科野菜の連作を避ける。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.フォース粒剤はネキリムシ類にも登録がある。	播種時	3A	フォース粒剤
			4A	アルバリン粒剤
			4A	スタークル粒剤
		発生初期	4A	モスピラン顆粒水溶剤
			4A	アルバリン顆粒水溶剤
			4A	スタークル顆粒水溶剤
			6	アニキ乳剤
			22B	アクセルフロアブル
9 ヨトウムシ	1.育苗床では防虫ネット（４㎜目合以下）で被覆する。 2.卵塊、幼虫は見つけしだい捕殺する。	発生初期	5	スピノエース顆粒水和剤
			18	マトリックフロアブル
10 ハスモンヨトウ	1.育苗床では防虫ネット（４㎜目合以下）で被覆する。 2.卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。 3.防虫ネット（４㎜目合以下）等でトンネル被覆すれば、飛来、産卵を防止できる。	若齢幼虫期	5	ディアナSC
			6	アニキ乳剤
			UN	プレオフロアブル
11 ハイマダラノメイガ （ダイコンシンクイムシ）	育苗床では防虫ネット（２㎜目合以下）で被覆する	発生初期	11A	フローバックDF

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する